

## 1 計画の策定経過

年	月日	会議等
令和5年 (2023年)	12月11日～12月26日	札幌市子どもに関する実態・意識調査
	12月11日～1月5日	札幌市就学前児童のいる世帯を対象としたニーズ調査
令和6年 (2024年)	2月10日	就学前児童の保護者へのグループヒアリング①
	2月11日	就学前児童の保護者へのグループヒアリング②
	2月17日	子育て支援者へのグループヒアリング
	3月27日	札幌市子ども・子育て会議 (第4次さっぽろ子ども未来プランの改定について)
	5月13日	札幌市子どもの権利委員会 (子どもに関する実態・意識調査の結果及び第4次さっぽろ子ども未来プランの改定について)
	6月27日	札幌市子ども・子育て会議 (就学前児童のいる世帯を対象としたニーズ調査の結果及び第5次さっぽろ子ども未来プラン骨子案について)
	7月1日～9月13日	子どもからの提案・意見募集ハガキの募集実施
	7月29日～8月31日	札幌市若者意識調査
	8月19日	さっぽろティーンズ委員会① (私が考える「子どもにやさしいまち」の検討／5回)
	9月12日	札幌市子どもの権利委員会 (第4次札幌市子どもの権利に関する推進計画素案について)
	9月13日	さっぽろティーンズ委員会②
	9月27日	さっぽろティーンズ委員会③
	9月28日	子ども議会① (「子どもにやさしいまち」を題材に子ども議員自ら設定した5つのテーマについて検討／5回)
	9月19日	札幌市子ども・子育て会議 (第5次さっぽろ子ども未来プラン素案について)
	10月4日	さっぽろティーンズ委員会④
	10月11日	さっぽろティーンズ委員会⑤
	10月12日～10月13日	さっぽろティーンズ委員会 東京派遣 (こどもシンポジウム「TEENS SQUARE」への参加)
	10月26日	子ども議会② さっぽろティーンズ委員会 (子どもが考える「子どもにやさしいまち」まとめ)
	11月9日	子ども議会③
	11月18日	札幌市子ども・子育て会議 (第5次さっぽろ子ども未来プラン案について)
	11月19日	札幌市子どもの権利委員会 (第4次札幌市子どもの権利に関する推進計画案について)
	11月23日	子ども議会④
	12月7日	子ども議会⑤
	12月26日	子ども議会(市長報告会実施)
令和7年 (2025年)	1月15日	札幌市議会文教委員会へ報告
	1月30日～2月28日	キッズコメント・パブリックコメントの実施

## 2 附属機関について

### (1) 札幌市子ども・子育て会議

札幌市子ども・子育て会議は、札幌市の子ども・子育て支援に関する協議のために、「札幌市子ども・子育て会議条例」に基づき設置された附属機関です。子育て当事者や大学生を含む公募委員、子ども・子育て支援に携わる関係者、学識経験者などから構成されています。

#### ■札幌市子ども・子育て会議委員名簿(会長及び副会長を除き五十音順、敬称略、令和7年3月時点)

氏名		所属等
会長	藤原 里佐	北星学園大学短期大学部教授
副会長	星 信子	札幌大谷大学短期大学部保育科教授
委員	天野 舞子	公募委員
	五十鈴 理佳	札幌市民生委員児童委員協議会 主任児童委員連絡会代表幹事
	大場 信一	北海道児童養護施設協議会顧問
	大森 悠平	特定非営利活動法人 全国認定こども園協会北海道地区地区長
	加藤 智恵	特定非営利活動法人 北海道子育て支援ワーカーズ代表理事
	加藤 弘通	北海道大学大学院教育学研究院准教授
	川内 佳奈	公募委員
	菊地 秀一	一般社団法人 札幌市私立保育連盟会長
	北川 聡子	特定非営利活動法人 札幌市里親会理事長
	金 昌震	札幌大谷大学社会学部地域社会学科准教授
	桑原 俊二	札幌市中学校長会幹事
	斎藤 規和	札幌市自立支援協議会子ども部会会長
	椎木 仁美	札幌弁護士会 弁護士
	繁泉 将晴	札幌市青少年育成委員会連絡協議会副議長
	末岡 裕文	一般社団法人 札幌市医師会理事
	高瀬 麻美	札幌市PTA協議会副会長
	千島 孝洋	北海道警察本部生活安全部少年課 少年サポートセンター所長
	千葉 一博	札幌市小学校長会会長
	永浦 拡	北海道教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻准教授
	馬場 政道	札幌弁護士会 弁護士
	林 亜紀子	札幌市学童保育連絡協議会事務局次長
	樋口 雅宏	札幌商工会議所中小企業相談所所長兼ビジネスキャリアセンター部長
	前田 尚美	札幌医科大学保健医療学部看護学科講師
	三好 琴音	公募委員
	箭原 恭子	公益社団法人 札幌市母子寡婦福祉連合会理事長
	藪 淳一	一般社団法人 札幌市私立幼稚園連合会会長
	山口 裕一	連合北海道札幌地区連合会事務局長

## （２）札幌市子どもの権利委員会

札幌市における子どもの権利に関する施策の充実を図るとともに、子どもの権利の保障の状況を検証するために、「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」に基づき設置された附属機関です。学識経験者や関係者、高校生を含む公募委員などから構成されています

### ■札幌市子どもの権利委員会委員名簿（委員長及び副委員長を除き五十音順、敬称略、令和7年3月時点）

氏名		所属等
委員長	寺島 壽一	北海学園大学教授
副委員長	千葉 一博	札幌市小学校長会会長
委員	浅野 友紀	公募委員
	大畑 和子	社会福祉法人羊ヶ丘養護園施設長
	佐々木 静香	公募委員
	鹿野 牧子	公募委員
	島瀬 史子	北翔大学准教授
	田中 敦	札幌主任児童委員連絡会副代表幹事
	新津 智哉	札幌市中学校長会事務局次長
	西澤 月菜	公募委員
	西原 向志	公募委員
	林川 希	札幌市PTA協議会副会長
	秀嶋 ゆかり	札幌弁護士会弁護士
	星山 愛倫	公募委員

### 3 各種調査結果

#### (1) 札幌市子どもに関する実態・意識調査

##### ア 調査目的

本計画の策定に向け、本計画に包含する「子どもの権利に関する推進計画」に関連して、子どもの権利保障の観点から子どもに関する大人の意識や子どもの状況を把握し、計画検討の基礎データを収集することを目的として実施したものです。

##### イ 調査対象

住民基本台帳から無作為に抽出した子ども・大人 10,000 人。

【子ども】札幌市在住の 10 歳以上 18 歳以下の方 5,000 人

※子ども用の調査票は、10～12 歳用と 13～18 歳用の 2 種類を作成

【大人】札幌市在住の 19 歳以上の方 5,000 人

##### ウ 調査期間

令和 5 年（2023 年）12 月 11 日（月）～令和 5 年（2023 年）12 月 26 日（火）

##### エ 回収状況

		対象数	回収数	回収率
子ども		5,000 人	1,679 人	33.6%
	10～12 歳	1,632 人	709 人	43.4%
	13～18 歳	3,368 人	970 人	28.8%
大人		5,000 人	1,777 人	35.5%
合計		10,000 人	3,456 人	34.6%

##### オ 調査方法

郵送アンケート調査（郵送発送、郵送回収）。Web アンケートフォームによる回答受付も併用。

※ 本調査に係る個別の調査結果については、札幌市のホームページ（<https://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/plan.html>）に掲載しています。

本計画において、第 2 章「2 札幌市の子ども・若者、及び子育て当事者の現状」のうち「(1) - ア 子どもの権利に関する現状」に掲載しているグラフデータが、本調査に基づく結果の一部になります。

## (2) 札幌市就学前児童のいる世帯を対象としたニーズ調査

### ア 調査目的

本計画の策定に向け、市民の教育・保育ニーズと札幌市における子育て支援の課題を抽出し、基礎データを収集することを目的として実施したものです。

### イ 調査対象

住民基本台帳から無作為に抽出した、就学前児童（5歳以下）の保護者 15,000 人。

### ウ 調査期間

令和5年（2023年）12月11日（月）～令和6年（2024年）1月5日（金）

### エ 回収状況

5,394 件（回収率 36.0%）

### オ 調査方法

郵送アンケート調査（郵送発送、郵送回収）。Web アンケートフォームによる回答受付も併用。

※ 本調査に係る個別の調査結果については、札幌市のホームページ（<https://www.city.sapporo.jp/kodomo/jisedai/shinplan.html>）に掲載しています。

本計画において、第2章「2 札幌市の子ども・若者、及び子育て当事者の現状」のうち「(2) - イ 子育て家庭の現状」に掲載しているグラフデータのうち、別途資料記載のないデータが、本調査に基づく結果の一部になります。

### (3) グループヒアリング調査

#### ア 目的

就学前児童がいる世帯の保護者及び保育所・幼稚園・児童会館等の現場スタッフ・子育て支援を行っている市民活動団体関係者から、子育てや子育て支援の現場における生の声を把握し、札幌市における子育て支援の課題を抽出することを目的に実施したものです。

#### イ 実施日

①就学前児童の保護者へのグループヒアリング

令和6年(2024年)2月10日(土)、2月11日(日)

②子育て支援者へのグループヒアリング

令和6年(2024年)2月17日(土)

#### ウ 会場(①②とも同様)

かでる2・7 (札幌市中央区北2条西7丁目)

#### エ 参加者

①就学前児童の保護者へのグループヒアリング 25名

②子育て支援者へのグループヒアリング 15名

内訳：保育士：5名／幼稚園教諭：4名／児童会館スタッフ：2名

民間児童育成会関係者：1名／市民活動団体関係者：3名

※ 本調査に係る個別の調査結果については、札幌市のホームページ(<https://www.city.sapporo.jp/kodomo/jisedai/shinplan.html>)に掲載しています。

本計画において、第2章「2 札幌市の子ども・若者、及び子育て当事者の現状」のうち「(2)－イ 子育て家庭の現状」に掲載しているグループヒアリングの内容が、本調査に基づく結果の一部になります。



## 4 子どもからの提案

### (1) 子どもからの提案・意見募集ハガキ

#### ア 概要

市内の小学校4年生から高校3年生までの子どもを対象に、市政やまちづくりについての意見や提案を返信用ハガキで募集する「子どもからの提案・意見募集ハガキ」のテーマを「子どもにやさしいまち」とし、広く市内の子どもたちから意見を募集しました。

#### イ 意見の提出方法

返信用ハガキ又はWeb回答フォーム

#### ウ 意見募集期間

令和6年(2024年)7月1日(月)～令和6年(2024年)9月13(金)

#### エ 提出のあった意見

260通／328件 ※複数意見の提出あり

#### オ 主な意見

- ・子どもの意見を聞いてくれる大人の存在や子どもの権利を尊重してくれるような環境があるまち
- ・明るく元気にあいさつをして、いろいろな人と交流できるまち
- ・将来の夢に向かって自分のやりたいことや目標を達成できるように支援してくれるまち
- ・子どもにやさしいまちは、子ども自身がその地域に住んでいることに誇りを持てるまち
- ・公共の場が安全に整備されていて、事故などが起きない、一人一人が安心して暮らせるまち
- ・互いの良いところを見つけられるように努力し、認め合えるまち
- ・誰もが何かあったら誰かを頼ることが簡単にできるまち



### (2) 子ども議会

「子ども議会」は未来を担う子どもたちが、主体的に札幌のまちづくりについて話し合い、発表する活動を通して、市政への子どもの参加及び意見表明の機会とする取組です。

#### ア 概要

「子どもにやさしいまち」を題材に子ども議員自ら設定した5つのテーマについて、関連する部局の市職員から市の現状などを学んだ上で、話し合いを重ね、市や市民ができることなどについて意見をまとめ、市長に直接報告しました。

子ども議会全体の進行は専門のファシリテーターが行い、テーマごとに分かれたグループの話し合いのサポートは事前に研修を受けた高校生・大学生のユースファシリテーターが行いました。

また、市長報告会の様子は札幌市広報部 YouTube 公式チャンネル SapporoPRD で広く公開しました。

#### イ 参加者

- ・子ども議員(小学4年生～中学3年生): 27人
- ・ユースファシリテーター(高校生・大学生): 12人



▲話し合いの様子



▲市長報告の様子

## ウ 開催回数

6回（市長報告会含む）

	開催	内容
第1回	9月28日（土）	テーマ決定、グループ分け
第2回	10月26日（土）	テーマごとの勉強会、提案づくり
第3回	11月9日（土）	テーマ関係部局の職員と質疑応答、提案づくり
第4回	11月23日（土）	意見交換会
第5回	12月7日（土）	リハーサル及び最終調整
市長報告会	12月26日（木）	意見を市長へ報告

## エ 意見概要

テーマ	私たちが考える「子どもにやさしいまち」
	概 要
体験事業	<u>平等で気軽に誰でも札幌らしい体験ができるまち</u> ・もっとたくさんの子どもたちにイベントを知ってもらうために、札幌市の子ども向けのイベントを検索できるサイトをつくろう
小学校教育	<u>子どもの意見を尊重し、子どもが自立できるまち</u> ・指定された学習方法で嫌々学ぶのではなく、子ども自ら考えられる環境にしてほしいため、小学校の授業でタブレットを利用するとき、子どもが主体的に判断できるようにしよう
防災防犯	<u>SNSのデマ情報が少なく、安心安全なまち</u> ・防災アプリ『そなえ』には多くの機能があり、多くの人に知ってほしいため、広報さっぽろを利用して、『そなえ』の認知度を上げよう ・そして、『そなえ』のようなアプリで、デマ情報にも自分で気づけるようにしよう
環境	<u>クマにとっても人にとっても安心安全なまち</u> ・駆除の対象となるヒグマをできるだけ減らすため、市街地と森林の中間エリアをもっと整備したり、唐辛子などのヒグマが苦手な匂いがする杭を使い、ヒグマを市街地から遠ざけよう ・ヒグマ対策と併せて、木材の活用を進めることで、地球温暖化等の対策もしよう
ジュニア相談	<u>相談が身近にできるまち</u> ・相談の仕方がわからない、予約方法がわからない、そういった子どもたちのために、相談場所を明確にしよう ・子どもたちの思いを知ってもらうために、学校でアンケートをとろう ・もっと相談相手を身近に感じられる環境にするため、札幌市の相談窓口が学校で出前授業を実施したり、カウンセラーが学校のイベント等に参加して子どもたちとずっと仲を深めよう

## (3) ユニセフ・札幌ラブウォーク

### ア 概要

北海道ユニセフ協会が主催するウォーキングイベントのゴール地点に、子どもの権利について札幌市の取組を紹介するブースを出展。子どもの権利に関する展示とともに、参加者からそれぞれが考える「子どもにやさしいまち」を募集しました。

### イ 開催日

令和6年（2024年）7月7日（日）

### ウ 参加者

約250人（意見提出：30人）

### エ 主な意見

- ・安全に遊べるまち
- ・人々がわかりあえるまち
- ・大人が手を差し伸べてくれるまち
- ・みんながあらそわないで平和でいられるまち





## 5 キッズコメント・パブリックコメント手続き

計画の策定に当たり、市民の皆様から広く意見を募集しました。併せて、キッズコメントとして、子どもの意見募集も実施しました。

なお、お寄せいただいたご意見については、ご意見の概要とそれに対する札幌市の考え方をまとめ、「第5次さっぽろ子ども未来プランキッズコメント・パブリックコメント意見集」に掲載しています。

また、ご意見を参考に、当初案を一部変更しました。

### (1) 意見募集期間

令和7年(2025年)1月30日(木)から2月28日(金)

### (2) 意見募集方法

郵送、持参、FAX、電子メール、ホームページ(ご意見入力フォーム)

### (3) 資料配布・閲覧場所

子ども未来局、札幌市役所本庁舎(1階ロビー、2階市政刊行物コーナー)、各区役所、各まちづくりセンター、児童会館、区保育・子育て支援センター(ちあふる)、保育所・幼稚園・認定こども園、小中学校・高等学校・特別支援学校 など

## (4) キッズコメント（子どもの意見）の内訳

### ア 意見提出者数（年代別）

年代	6歳以下	7歳～9歳	10歳～12歳	13歳～15歳	16歳～17歳	不明	合計
人数	3人	7人	57人	25人	2人	0人	94人
構成比	3.2%	7.4%	60.6%	26.6%	2.1%	0.0%	100%

### イ 提出方法別内訳

提出方法	郵送	HP	FAX	メール	持参	合計
人数	12人	80人	1人	0人	1人	94人
構成比	12.8%	85.1%	1.1%	0.0%	1.1%	100%

### ウ 意見件数・意見内訳

意見区分	件数	構成比
第1章 計画の策定	0件	0.0%
第2章 札幌市の現状	2件	1.1%
第3章 計画の推進体系	1件	0.5%
第4章 具体的な施策の展開	153件	83.6%
基本目標1 子どもの権利の推進とライフステージを通じた環境の充実	(37件)	(20.2%)
基本目標2 ライフステージの各段階における環境の充実	(111件)	(60.7%)
基本目標3 子育て当事者への支援の充実	(5件)	(2.7%)
第5章 子どもの貧困の解消に向けた対策計画	0件	0.0%
第6章 ひとり親家庭等自立促進計画	0件	0.0%
第7章 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業に関する需給計画	0件	0.0%
第8章 計画の推進	0件	0.0%
その他意見	27件	14.8%
合 計	183件	100%

## (5) パブリックコメント（大人の意見）の内訳

### ア 意見提出者数（年代別）

年代	18～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	不明	合計
人数	0人	1人	16人	18人	13人	3人	2人	0人	2人	55人
構成比	0.0%	1.8%	29.1%	32.7%	23.6%	5.5%	3.6%	0.0%	3.6%	100%

### イ 提出方法別内訳

提出方法	郵送	HP	FAX	メール	持参	合計
人数	8人	38人	1人	8人	0	55人
構成比	14.5%	69.1%	1.8%	14.5%	0.0%	100%

### ウ 意見件数・意見内訳

意見区分	件数	構成比
第1章 計画の策定	2件	1.5%
第2章 札幌市の現状	22件	16.5%
第3章 計画の推進体系	7件	5.3%
第4章 具体的な施策の展開	81件	60.9%
基本目標1 子どもの権利の推進とライフステージを通じた環境の充実	(32件)	(24.1%)
基本目標2 ライフステージの各段階における環境の充実	(33件)	(24.8%)
基本目標3 子育て当事者への支援の充実	(16件)	(12.0%)
第5章 子どもの貧困の解消に向けた対策計画	2件	1.5%
第6章 ひとり親家庭等自立促進計画	3件	2.3%
第7章 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業に関する需給計画	3件	2.3%
第8章 計画の推進	0件	0.0%
その他意見	13件	9.8%
合 計	133件	100%

## (6) 意見に基づく当初案からの変更点

市民の皆様からいただいたご意見をもとに、第5次さっぽろ子ども未来プランの当初案を9項目修正しました。ご意見は趣旨が変わらない程度に要約しています。

修正点1	
修正箇所	P. 5 第1章 ポイント②計画策定に関連する国の動きについて
修正前	ライフステージを通じて重要な課題として、こどもが権利の主体であることを周知し、多様な体験と活躍の機会をつくり、連続的に保健や医療を提供することに加え、(中略)こどもの誕生前から幼児期では、安心・安全でこどもが成長でき、遊びも充実している環境づくりなどについて
修正後	ライフステージを通じて重要な課題として、こどもが権利の主体であることを周知し、多様な遊びや体験と活躍の機会をつくり、連続的に保健や医療を提供することに加え、(中略)こどもの誕生前から幼児期では、 <u>妊娠前から幼児期までの切れ目のない保健・医療の確保や子どもの成長の保障などについて</u>
修正の元となった意見の概要（パブリックコメント）	
本書5ページこども大綱の説明について、こども大綱では全てのライフステージにおける遊びの重要性を語っているが、プラン案の説明では、幼児期のみに遊びが重要という説明に見えることから、修正が必要ではないか。	
札幌市の考え方	
ご意見いただいたとおり、こども大綱では「ライフステージを通じた重要事項」として「多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり」を上げていることから、前段の「ライフステージを通じた重要事項」の説明文に遊びに関する説明を追加いたします。また、幼児期の説明については、こども大綱において同時期で重要としている項目についての説明を追加いたします。	

修正点2	
修正箇所	P.15 第2章—1 前計画の実施状況 ウ 基本目標3 子どもと若者の成長と自立を支える環境の充実 ■地域における子どもの成長を支える環境づくり
修正前	子どもの自主性・創造性・協調性を育むことを目的に、規制を極力排除した公園等で地域住民等が開催・運営する「プレーパーク」を進めるなど、多様な体験機会の提供を推進しました。
修正後	子どもの自主性・創造性・協調性を育むことを目的に、規制を極力排除した公園等で地域住民等が開催・運営する「プレーパーク」を進めるなど、 <u>日常における多様な体験機会の提供を推進しました。</u>
修正の元となった意見の概要（パブリックコメント）	
本書15ページに「地域住民等が開催・運営する「プレーパーク」を進めるなど、多様な体験機会の提供を推進しました。」とあるが、プレーパークは「日常生活における多様な経験機会」を保障する場であると思われることから、「日常における多様な経験機会の場を提供」のような文言にしてはどうか。	
札幌市の考え方	
ご意見では「経験機会」とありますが、体験するということは、「遊び」や「学習」等の活動や、「人助けをする」、「喧嘩をする」等の行為だけを意味するのではなく、その活動や行為を通じて得られる感情や気づき等、いわゆる体験の質に関わる部分も含まれると認識しておりますため、「体験機会」のままいたします。一方で、これを一時的なものではなく、日常的なものであると多くの市民の皆様にご認識いただくために、ご意見を踏まえ「日常における」という文言を追加いたします。	

### 修正点3

修正箇所	P.31 第2章—2—(1)—イ 若者の社会参加や意識に関する現状 図2-18 札幌市がどのようなまちになってほしいか
修正前	記載なし
修正後	「札幌市子どもに関する実態・意識調査」による「札幌市がどのようなまちになってほしいか」の結果を図2-18-2として追加
修正の元となった意見の概要（パブリックコメント）	
若者向けに札幌市にしてほしい取り組みやどのようなまちになってほしいかといった調査をしており、遊びに関する項目が低く出ているが、施策として必要とするのは子どもであることから、同様の調査を子どもにも行うべき。また、行っているのであればプランに結果を加えるべき。	
札幌市の考え方	
「札幌市がどのようなまちになってほしいか」については子どもにも調査しているため、子どもの結果を掲載いたします。「子どものために札幌市にしてほしい取組」については未実施であるため、次回調査で実施を検討いたします。	

### 修正点4

修正箇所	P.49 第2章—3（方向性1） 子ども・若者の権利を推進します
修正前	■子どもが様々な体験をし、経験や成功体験を積み重ねていくことができるよう、職業体験・社会体験などの多様な体験機会、地域・札幌市政等における子どもの主体的な参加機会の充実が求められています。（図2-5）
修正後	■子どもが様々な遊びや体験をし、経験や成功体験を積み重ねていくことができるよう、遊びの機会や、職業体験・社会体験などの多様な体験機会、地域・札幌市政等における子どもの主体的な参加機会の充実が求められています。（図2-4、5）
修正の元となった意見の概要（パブリックコメント）	
第2章の統括で子どもの遊びについて書かれているのは、方向性3の子育て当事者支援の目線だけであることから、方向性1の二つ目の項目に子どもの遊びの重要性を入れることで、第4章の基本目標1-基本施策2の内容につながると思う。	
札幌市の考え方	
ご意見いただいたとおり、調査結果から、子どもたちも遊ぶことについての権利を重要と考えており、第4章では基本目標1の基本施策2により、子ども・若者視点での遊びの重要性について述べていることから、方向性1の2つ目の項目を修正いたします。	

## 修正点5

修正箇所 P.58 第3章—5—（1）計画全体の成果指標

修正前	（1）計画全体の指標		
	<p>本計画の基本理念は、全ての子ども・若者が大切にされ、幸せな状態で生活できる社会を目指しています。これは、多くの子ども・若者が、前計画の計画全体の成果指標により目指していた「自分のことが好きだ」と思える社会や、多様な価値観を前提として、「子どもを生み育てる」ことが選択できる社会といった概念を含むことから、新たに以下の指標項目を計画全体の成果指標とします。目標値は、こども大綱の目標値※1を参考に設定します。</p>		
	指標項目	現状値 （令和5年度）	目標値 （令和11年度）

子どもが大切にされている社会だと思う人の割合	子ども※2	—	70.0%
	大人		

※1 類似指標である、こども大綱の『『こどもまんなか社会』の実現に向けた数値目標』の一つ『『こどもまんなか社会の実現に向かって』と思う人の割合』の目標値70.0%。  
 ※2 子どもの調査対象の年齢は、10歳～18歳とする。これ以降の指標についても、同様とする。

修正後	（1）計画全体の指標		
	<p>本計画の基本理念は、全ての子ども・若者が大切にされ、幸せな状態で生活できる社会を目指しています。これは、多くの子ども・若者が、前計画の計画全体の成果指標により目指していた「自分のことが好きだ」と思える社会や、多様な価値観を前提として、「子どもを生み育てる」ことが選択できる社会といった概念を含むものです。</p> <p>また、「こども大綱」では国を挙げて「こどもまんなか社会」の実現を目指し、『『こどもまんなか社会の実現に向かって』と思う人の割合』を目標の一つに設定しています。札幌市においても本計画の基本理念の達成を測るため、国の示す目標を計画全体の成果指標としつつ、よりわかりやすく表現した上で、国が掲げる数値70%を参考に目標値を設定します。</p>		
	指標項目	現状値 （令和6年度）	目標値 （令和11年度）

子どもが大切にされている社会だと思う人の割合	35.5%	70.0%
------------------------	-------	-------

### 修正の元となった意見の概要（キッズコメント）

計画全体の成果指標である「子どもが大切にされている社会だと思う人の割合」の初期値がないため、アンケート等を実施し現状を把握することで、深刻度などを表せる。

### 札幌市の考え方

現状値は、令和7年（2025年）2月実施の18歳以上の市民を対象とした「指標達成度調査」で数値を確認し、計画本書にも記載いたします。また、本プランの進行管理において、上記調査に加え10歳～18歳の子どもを対象とした調査を毎年実施し、子どもと大人それぞれの数値を把握し、計画の推進に努めます。



## 修正点 6

修正箇所	P. 71 第4章 基本目標1－基本施策2 多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり
修正前	子ども・若者の年齢や発達状況に応じた様々な体験ができ、
修正後	子ども・若者の年齢や発達状況に応じた様々な <u>遊びや体験</u> ができ、
修正の元となった意見の概要（パブリックコメント）	
基本目標1－基本施策2「多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり」と施策名に「遊び」の文言が入っているのは良いことだと思うが、説明文の二段落目後半で、「様々な体験機会ができ」と体験機会にしか触れていないため、前半部分と合わせ、「子ども・若者の年齢や発達状況に応じた様々な遊びや体験ができ」と記述し、遊びと体験は別物だとわかるようにしたほうが良い。	
札幌市の考え方	
ご意見いただいたとおり、本施策では、子ども・若者が多様な遊びや体験ができるよう取り組んで行くことを述べていることから、修正いたします。	

## 修正点 7

修正箇所	P.78 第4章 基本目標1－基本施策3 児童虐待防止対策と社会的養護の推進及びヤングケアラーへの支援		
修正前	記載なし		
修正後	(「児童相談体制の強化」に以下の事業を追加)		
	事業・取組名	事業内容	担当部
	子育て世帯訪問支援事業	虐待リスク等の高まりを未然に防ぐことを目的に、児童の養育を支援することが特に必要と認められる家庭等に対し、家事支援や育児支援を行う者を派遣します。	子) 児童相談所
修正の元となった意見の概要（パブリックコメント）			
子どもへの虐待・虐待死を減らすために、群馬県高崎市のような「子育て SOS サービス」を導入してほしい。親が自身の限界を超え、子に虐待しそうになった時に、経済的な負担を気にすることなく、SOS を出しやすい環境を作ることが必要ではないか。			
札幌市の考え方			
札幌市では、各区保健センターにおいて、乳児のいる全ての家庭を保健師等が訪問し、子育てに関する情報提供を行うほか、乳児及びその保護者の心身の状況及び養育環境の把握を行い、養育についての相談に応じ助言等の支援を行っており、更に必要に応じ個別支援が必要な虐待リスクのある家庭については適切な支援につなげるなど、子育て当事者の SOS を受けとめる体制を整えております。 加えて、児童の養育を支援することが特に必要と認められる家庭等に対し、家事支援や育児支援を行うヘルパーを派遣し、家庭や養育環境を整え、虐待リスク等の高まりを未然に防ぐことを目的とする「子育て世帯訪問支援事業」を実施していますので、本項目にも事業を追加掲載いたします。この事業は無料で利用でき、子育て当事者は経済的な負担なく支援を受けられます。 こういった取組を引き続き進めつつ、いただいたご意見を踏まえ、子育て当事者の皆様が SOS を出しやすい環境となるよう努めてまいります。			

## 修正点 8

修正箇所	P. 98 第4章 基本目標2－基本施策2 学童期・思春期における環境の充実
修正前	学校を中心とした地域コミュニティ機能を持った新型児童会館の整備を進めていきます。
修正後	学校を中心とした地域コミュニティ機能を持った新型児童会館の整備を進めていく <u>ことに加え、地域における子どもたちの放課後の居場所である民間児童育成会に対する支援を行います。</u>
修正の元となった意見の概要（パブリックコメント）	
「放課後の子どもの遊び場・生活の場の提供」の内容の中に「放課後の居場所づくりが重要」とされているが、民間児童育成会への言及がないのはなぜか。	
札幌市の考え方	
<p>「放課後の子どもの遊び場・生活の場の提供」の＜主な事業・取組＞の中で具体的な事業の内容を挙げており、「民間児童育成会への支援事業」について記載しておりますが、基本施策2の説明文内においても、放課後の子どもたちの重要な居場所の一つである民間児童育成会について、記載いたします。</p>	

修正点 9			
修正箇所	P. 98 第4章 基本目標2－基本施策2 学童期・思春期における環境の充実 P. 101 ■成年年齢を迎える前に必要となる知識に関する情報提供や教育		
修正前①	また、様々な仕事・ロールモデル に触れる機会、社会人との交流の場などを創出し、子ども・若者が自らのライフデザインを描けるよう、職業体験の取組を推進します。		
修正後①	また、様々な仕事・ロールモデル に触れる機会、乳幼児や社会人との交流の場などを創出し、子ども・若者が自らのライフデザインを描けるよう、 <u>職業体験等</u> の取組を推進します。		
修正前②	記載なし		
修正後②	「成年年齢を迎える前に必要となる知識に関する情報提供や教育」に以下の事業を追加		
	事業・取組名	事業内容	担当部
	まちづくり・ライフデザインに関する意識の向上	まちづくりへの参画やまちへの愛着につなげることを目的に、高校生や大学生からまちづくりに関して提案をいただく取組を推進します。また、妊娠、出産、育児等に関する情報の普及などライフデザインに関する意識向上に向けた取組を推進します。	政) 政策企画部
次世代育成支援事業		小中高校生等に乳幼児との触れ合いや、親子との交流、乳幼児の発達や育児について学ぶ機会を提供していく中で、触れ合う楽しさや命の尊さ、家族がともに育児にかかわることの大切さなどを伝えます。	子) 子育て支援部
修正の元となった意見の概要（キッズコメント）			
子育てサロンで中高生がボランティアをする活動は、子育て家庭だけでなく中高生が子どもと交流できる場であると感じ、このような活動を通して違う世代の人や同じ環境の人同士が交流できるのはいいことだと思う。			
札幌市の考え方			
札幌市では、小・中・高校生が子どもと触れ合い、子育てに関する体験の機会を持てる「次世代育成支援事業」を行っていますので、本計画にも事業を追加掲載いたします。また、子育てボランティアの経験を通じて、子どもと触れ合う楽しさや命の大切さ、地域の中で育児を行う大切さを伝えています。更に、子ども・若者向けにライフデザインに関する意識向上に向けた取組を行っていますので、本項目にも事業を追加掲載いたします。			

## 第5次さっぽろ子ども未来プラン

令和7年（2025年）3月発行

札幌市子ども未来局子ども育成部子ども企画課  
電話 011-211-2982 FAX 011-211-2943  
Eメール kodomo.jisedai@city.sapporo.jp

札幌市の公式ホームページでもご覧いただけます。  
右記二次元コードよりご確認ください。



**SAPP  
RO**



さっぽろ市  
01-G01-25-544  
R7-1-59